

平成 29 年度 第 1 回日野町総合教育会議議事録

1. 日時：平成 29 年（2017 年）6 月 26 日（月）16 時 00 分～17 時 30 分
2. 場所：日野町役場 防災センター2 階 202 会議室
3. 出席者（敬称略）  
藤澤直広日野町長  
日野町教育委員会：今宿綾子教育長、石岡孝浩教育委員、西村吉弘教育委員、  
山田めぐみ委員、高橋政宏教育委員  
庶務：高橋正一教育次長、野瀬薫学校教育課参事、正木博之学校教育課参事  
日永伊久男生涯学習課長、宇田達夫子ども支援課長、高浪郁子図書館長  
安田尚司企画振興課長、横山のりこ主査
4. 傍聴人 0 人

開会 （企画振興課長）

日野町総合教育会議 2017 年 6 月 26 日

町 長 皆さん、こんにちは。平成 29 年度第一回総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。

6 月議会がこの間終了いたしまして、日野小学校の給食施設の工事請負契約の承認、さらには教育用コンピューター、そして西大路公民館の改修の予算も議決いただいたということで、本年度の事業をひとつひとつ進めていただいているということでございます。その他今年は中学校のグラウンド整備、さらには認定こども園の園舎の整備をはじめとして盛りだくさんであります。

年度がスタートして三ヶ月でございます。また色々と意見交換ができればありがたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

安田課長 要綱の第 2 条に協議事項がございますが、教育サイドの方からの予算案や色々な事業があり、町長を交えて意見を交換するという場がございますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。第 4 条にこの会議の議長は町長ということになっておりますので、よろしくお願ひします。

町 長 それでは協議事項ということで、平成 29 年度の主要事業についてでございます。教育委員会のなかでもご議論いただいているところですし、繰り返しになる部分もあろうかと思ひますので、コンパクトにお願ひします。

教育長 大変お忙しいなか、総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。はじめに今年度第一回総合教育会議にあたりまして、協議事項の（1）平成 29 年度の主要事業についてと（2）教育行政の現状について、あわせて資料をも

とに簡単に説明させていただきます。

一枚目に日野の教育基本目標を掲げさせていただいております。これは町の方針の「ひびきあい『日野のたから』を未来につなぐ自治の力でかがやくまち」づくりというのを受けまして、教育の基本方針として「日野のたから」を未来につなぐ心豊かでたくましい人づくり」と設定しました。次に「ふるさと日野を愛し、ふるさと日野に誇りをもつ人づくり」というモットーを掲げております。

そして基本方針には三本の柱があります。

- (一)「子どものたくましく生きる力を育む」
- (二)「子どもの育ちを支える環境をつくる」
- (三)「人々がともに育ち活力ある日野の町をつくる」

という観点であります。それぞれさらに具体的な目標を掲げています。

一本目の柱は、ひとりひとりの能力、個性を伸ばすということです。知、徳、体、調和のとれた人格の完成といった、主に学校教育が担っていく部分と思っております。そして二本目の柱は、学校の教育環境の整備とともに家庭や地域全体の教育力の向上をはかるという観点につきましては学校教育もありますし、また社会教育、生涯学習がともに関わり合いながら進める部分と思っております。そして三本目の柱としましては、町民ひとりひとりの生涯を通した学習によって豊かな人生を築くということで、主には社会教育、生涯学習が中心になるということです。日野町教育委員会は学校教育課、生涯学習課という 2 課がありますが、相互に関わり合いながら、共通の目標に向かうという認識をしっかりと持っています。また、社会に開かれた学校づくり、学校を核にした地域づくりについて、学校教育と社会教育が両輪となって教育にあたるということはこの図に表しております、学校と社会が力を合わせていくことを示しています。

続きまして資料の 2 枚目と 3 枚目を併せて見てください。これは平成 29 年度の教育の重点を示しています。これにつきましては、各学校、先生方にもこれをもとにそれぞれの教育目標を掲げいただいているということです。

破線の中の部分が、重点です。4 点ございます。

- ① 次期指導要領が色々と改訂されているが、対応をしっかりとっていくこと
- ② ふるさと日野の教育の充実
- ③ 地域・専門家との連携（地域絆活動）
- ④ 日野の教育を支える人材育成（詳細は資料の 3 枚目）

英語指導につきましては、民間に業務委託をし ALT の派遣について 6 月 19 日に説明会を行い、その後学校に派遣をして二週間になります。ALT はフィリピンのシーナさんという非常に美しい英語を話される、明るいイメージの方です。

またタブレット型のパソコンを今年度で全小中学校に整備することができますので、調べ学習、またグループ学習で有効に活用したいと思っております。英語のプロジェクトチーム、また ICT 教育のプロジェクトチームの委員会を教育委員会の中で作って、そこから学校に広げていきたいと考えています。

地域未来塾カレッジハウスにつきましては、一昨年から、退職された先生方に夏休みの補助学習としてスタートしていただきましたが、今年度も 6 月 16 日に先生方に集まっていただき説明会をさせていただきました。8 月に 6 回の対応ということで、まずは進めていただきます。

しっかりと子どもたちの学力補充の道筋をつけていくという狙いがありますので、放課後学習など各学校にも広めています。中学生の放課後教室につきましては、昨年から福祉保健課と少年センターの協力をいただいて、金曜日に図書館で放課後に学習を進めていただいております。今年は 4 人の対象で進めています。中 3 の 4 月 5 月はなかなか厳しかったのですが、それでもすごくまじめに通ってくれまして、皆高校に入学できたという非常に嬉しい結果もございましたので、未来塾と併せて、末広がりになるようにやっていきたいと考えています。それから図書館の司書の方 4 人に学校に在駐していただいております。このようにして「①次期指導要領への対応」を進めております。

「②ふるさと日野の教育の充実」につきましては、3 年生以上の子どもたちが「わたしたちの日野」という副読本を活用しながら体験活動を通して我が町を知り、その良さに気づく、またそのことを周りの人にも伝えられるようになることを狙っています。机上で知識の数だけを注入するのだけではなくて、体験を通して学んでいく中で、生涯にわたって、ねらいとする姿を身につけていけるのではないかと思いますし、またその手法として、「③地域・専門家との連携」を重視し地域の方々と共に指導していくというように、②と③を重ね合わせながら進めていきたいと思っております。特に③のところは地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生するというところでございます。これは始めたばかりですので、色々なことを協議しながら取り組んでいきたいと思っております。

「④日野の教育を支える人材の育成」については 50 代～40 代後半の年代層の教師が多く、若手が少ないというようなことがありました。ベテラン層の退職により層がガラッと変わるという状況がおこってまいります。先日も小学校、中学校の教頭会の総会に寄せていただいたのですが、小学校の新任教頭が 6 6 名、中学校が 3 3 名でした。あわせて 9 9 名ですが、県内の 3 分の 1 ずつ変わっていくような状況で、それこそ 3 年 4 年たつと管理職の層は大きく変わりますし、同じく教職員もガラッと変わるという認識があります。これからの課題が山積している中で、教員ひとりひとりがしっかり力をつけるというのが必要な課題

であり、教師の人材育成は大きな仕事になっているので、色々な研修をしています。

4枚目の資料は「子どもが抱える不安や課題を相談改善するための支援体制」についてです。町の中には多くの機関がございますが、それぞれの機関のつながりということ意識して表示をしています。このような形で進められるといいなということです。特に教育相談に力を入れていますので、次のページも併せて見ていただきたいと思います。生徒指導につきましては、色々なことが起こってきますけれども、中学校を考えると、近年落ち着きが見られますし、一定の成果がみられていると思います。一方で目立ってきているのが、不登校の課題であります。心の内面に係る指導ですので、指導は時間がかかると思いますが、根気よく手厚い指導が必要です。S S Wやスクールカウンセラーや色々な方々の専門的な関わりを通して、何かあった時というよりも、日頃からの取り組みが大事だという認識で進めていきたいと思っています。教育相談センターの臨床心理士さんなどが専門的に学校の方へ出かけて行って、子どもたちへの教育相談の指導をしたり、学習支援員などたくさんの方の支援をいただいておりますので、その人たちをいかに最大限に活躍していただくかということを考えながら取り組んでいます。以上です。

町長 ネイティブさんって、どんな人が来てはるのですか？

野瀬参事 23歳のシーナという女性です。まだ日本に来て一年少々の方ですので、インターンとかチューターという形で、東近江の方と一緒に回ってくださっています。日本語については、まだ少したどたどしいところはあります。シーナ吉村さんと言いまして、たぶん2世の方だと思います。非常に朗らかで明るい方です。マニラの近くに住んでいるというように聞いています。

町長 そういう23歳の女性の方は、フィリピンから日本に何を狙って来られるのでしょうか。

教育長 日本の文化などに関心があったと言っておられました。そういう勉強をしたいと思っていたところに、この仕事を見つけて、来られたようです。

町長 入札したらしいけど、どうして選ばれたのか。人を入札したのか。

野瀬参事 業者を入札させていただいて、業務委託という形でさせていただいております。2人紹介いただきまして、1人はアメリカ国籍の方、もう1人がフィリピン国籍のシーナさん。向こうの担当者の西さんという方とお話させていただいて、アメリカ国籍の方は、それこそネイティブですけど、中学校向きの方だと。シーナさんは小学校向きの非常に明るい性格で、前任が英語教室で講師をされていたということですので、その点を重視して、シーナさんを選ばさせていただきました。

町長 業者を入札するのはどういうことなのか。金額で入札しているのか。

野瀬参事 昨年の2月の中旬にアルティアセントラルという会社とインタラックという会社の2社に来ていただきまして、教育長、次長、外国語活動推進委員会の会長・副会長、私と中学校の先生とで、こういう場を持たせていただいて、会社の事業の様子をプレゼンテーションをしていただきました。どちらも信用できる会社だということで、その時には人も紹介もしていただいた。入札等の関係で時間がずれて、人は替わってしまったのですが、会社の体制とか教材とか、その人物に対するフォロー体制等がどちらもしっかりしていることを確認させていただいた上で、後は入札で判断いただいています。

町長 それでいくらといくらが入ったのか。

野瀬参事 お金のことは園城さんに昨年から任せていますので、私はわかりませんが、10ヶ月で400万くらいだと思います。

町長 400万と410万だったら、400万をとるとということか。

野瀬参事 はい、そういうことです。

教育長 中学校の先生から、小学校で色んなゲームなどをしているのだけれど、もう少し中学校の授業とつながりがあったらいいなという話が出ました。どういうふうにやっていけばよいか考えていきたいと思います。ただ、一番目指すのは、英語の力をつけて外国の言葉で話すことが楽しいとか、コミュニケーションをとる力をつけるということが大事なので、そういうことを意識してやっていく。日野町は日野町でやってきた教材やカリキュラムというのがあります。今までしてきたことと、いきなり6月から来られた人のやり方と、どちらをしたらいいのですかという質問が出たのですが、そんなこと言わないで、いっぱいノウハウを持ってはるので、そこに乗かってやってよいところはどんどん使ってみて、また調整しようと話しました。

高橋委員 私の感覚で言うと、JETさん1人で、民間で特に労務管理がしっかりしていますよね。私がここにいる時、それを狙っていました。当時は中学校にJETさんが1人で、二週間に1回か一週間に1回順繰りに回っておられましたが、その時からもう1人ネイティブさんがいたらいいなと、財政面もありますが期待していた問題ですので、よかったですし、いよいよ外国語に慣れ親しむ、しゃべれる、そういう方向に転換が行われています。それをまた応援していただく方もおられるのですね。

教育長 JETは今回3、4年生をお願いしようと思っている人ですけど、ずっとついでくださっています。

町長 JETとは何ですか。

教育長 Japanese English Teacher、日本人の英語指導員です。

高橋委員 日野町の子どもたちが、10年後にどんな子どもに育つのかな、育ててほしいという思いを持っているわけです。そういう点でいうと、以前からも議論されて

いますが、幼小中高と子どもの育ちをみていこうというのは、日野町独特の教育の良い一本が入っていていいなと思っています。とりわけ外国語教育の重視がうたわれるなかで、JETさんと民間さんがあって、またその応援部隊がいてというように、事務局がうまく機能していくようにされていますので、うれしく思っています。これは以前から思っていたことで、実現できてよかったなと、私は正直思っています。

色々な面で県とのつながりもいるんですよね。市町によっては、JETさんは県なのでと切ってしまうところもある。そうするとこの部分で県とのつながりが切れてしまうので、私は以前、JETさんも残しながら、民間さんもそれ相応に入れて整合性があるようにして、それを応援してもらおう方々も学校に入ってもらっていた経験があって、いいなと思っています。

町長 県はJETを雇っているだけで関係ないのではないか。小学校の評価は英語を入れるといいながら、まだおぼろげの話です。高嶺のできもしないことを言わない方がいいと思う。皆が皆英語をしゃべれるようになれるだろうか。外国人がきてやってもしゃべるはずがない。政府が言うことを真に受けて、そんなところよりも、もっと地に足をつけた教育をしなければいけないと思う。そんなことでしゃべる人が出るはずがない。それよりもむしろ早いこと英語をさせて、英語を嫌いになる子どもたちが多く出ることの方が心配だ。

教育長 授業中にアクティビティという英語のゲームがよく組み入れられるのですが、ゲームのやり方があまりわからないままにしていることがあるようです。この英語ゲームのルールがもう一つ自分ではっきりわからないのに、「さあ、しましよ」となって、わからないままで終わってしまうということがあるというのが、中学校の先生の話の中でわかりました。授業改善など色々しながら力をつけるという方向をもってやっていく。

町長 先生の力をつけるのか。

教育長 先生はもちろんですけどね。

町長 5～6年前に、日野町小学校で英語の何かを見に行ったら、よくわからなかった。

教育長 でも、新しい取り組みをしています。

町長 それがおかしい。また新しいことをするといつて、コロコロ変わって、何にも基礎が定まっていない。

教育長 この何年間で全くしなかった状態から週一回くらいはするようになってきました。それが5年前に見ていただいた姿と現在は変わっていると思います。

町長 桜谷小学校では音楽をならしてA、B、C・・・と歌を歌っていたが、時間の無駄だろうと聞いていた。絵空事のようなこと言わないで、本当に子どもに、どういうふうに担当を持って、どうしていくかということに地を足をつけて、英語

だけでなく、すべての教科のバランスも含めてやるべきだと僕は思います。3年生から始めたら英語がしゃべれる子ができる、というはずがない。それは国際競争力の人材育成とは関係ない。もう少しドシンと構えて、本論の教育とはどうなんだというところが一番大事だと思う。がんばってください。  
学校コーディネーターはどうですか。山川さんが来てくれはりましたが、他に誰がいるのですか。

- 野瀬参事 日野小学校が野崎先生、西大路小学校は山川先生、南比都佐小学校が坂田先生、必佐小学校が岡田先生、桜谷小学校は奥村先生にいただいています。
- 教育長 コーディネーターさんが集まって、熱心にこんなことをしたい、あんなことしたいと話をされています。
- 町長 この図書館でやっている4人の中学生は選抜されたのか。
- 高浪館長 図書館を会場にいただいています、こちらはほとんどお部屋を貸しているだけなので、内容についてはわかりません。
- 日永課長 経済的に恵まれない家庭の中で、なるべく学習意欲のある子どもさんに参加していただいているということです。
- 町長 どうして募ったのか。
- 日永課長 中学校の先生を通じまして、それぞれのご家庭にもダイレクトにご案内を差し上げました。
- 町長 例えば10人に案内を出して4人来はったのか。
- 野瀬参事 18人に案内を出しました。
- 日永課長 中学3年生の子どもさんが中心ですので、2学期からクラブがなくなると受験が控えるので、またそういう時に二次募集ということで、メールで再募集させていただこうかと考えています。
- 町長 週に何回とか、月に何回とか、どれぐらいの頻度でしているのか。
- 日永課長 毎週金曜日です。
- 町長 誰が教えてくれているのか。
- 日永課長 県の東近江の福祉事務所の方と・・・。
- 町長 県の福祉事務所の職員が教えているのか？
- 野瀬参事 教えるというより、ついているという感じです。
- 日永課長 それと町内の大学生の方や社会人の方も一部いますが、そういったボランティアの方でやっています。
- 町長 何人くらいが来てくれているのか。
- 日永課長 今で8人ほどのボランティアの方がおられるのですが、授業の関係もあって今来ておられるのは4人くらいです。
- 町長 4人だったら、マンツーマンですね。手厚いですね。
- 教育長 県の事業に町の少年センターの服部先生がのせてくださったのにジョイントし

ています。

町 長 子どもが勉強したいことを教えてもらえるのか。こちらから教えるのではなく、子どもからわからないところを聞いてくるのか。

日永課長 とうか、学力的にかなり低い方が多いので、こちらからも指導的にやっていくという感じです。これしてくださいといっても、解き方がなかなかわからないとかそういう感じです。

町 長 何がわからないかわからないのかなあ。

日永課長 そうです。だから、マンツーマンに近い状態でないと、なかなか難しい。

町 長 そうすると、Aさんに対してXさんがついていたら、次の週はというと、なかなか難しいのではないかと。

日永課長 そういうわけでなく、マンツーマンでも人は週によって変わります。

町 長 金曜日の何時から？

日永課長 今は6時から8時までです。これから夏休みに入ってきますと、時間帯も4時くらいからしたいと思っています。

町 長 今クラブ活動の話が出ましたが、クラブ活動はどうですか。今はオールジャパンで、土曜日や日曜日はやめようかという話が出ているようなことを新聞で見たりするのですが、どんな感じですか。

野瀬参事 日野中学校は水曜日を原則部活のない日にして、週一回は必ず部活を休みましようということです。ただ土日につきましては、先生方に比較的自由に任せていますので、また学校長もクラブを軸とした学校づくりを目指していますので、一斉に休みというわけにはなかなかできないというのが現状です。

町 長 今は、せめて土日のうちどちらかを休むという流れではないのかな。水曜日は全部休みなのか。

野瀬参事 原則そうしていると聞いています。

町 長 働き盛りの先生方が、土日クラブ活動ばかりというのは大変だということは社会的に言われていて、学校当局ができないから、文科省が指図をしているのだけれど、そこらはどうなんだろう。直感で言ったら、せめて土日の一日をやめる方が、水曜日にやめるより教師に対する負担は楽になるのではないのか。

高橋委員 私が今している仕事で教育実習を見に行くことがあって、他の県にも行くことがあります。働き方について文科省や民間が色々言ってますけど、私の感覚で言うと、そういう実習やら生の声を聞くと、部活動にもものすごく魅力を感じているそこそこの年代の先生がおられるので、校長だからといって部活動をそこそこにしときなさいとは、なかなか言えないというのがある。それと、その学校が、特色ある教育と言い過ぎかもしれませんが、そういうものがあつた場合には、それを維持したいので、そう簡単には部活動を切ってしまうと、先生全員早く帰りなさいと言えないと、中学校しか行きませんが、今年行った



いくつかの学校の管理職はそういうことを言っていました。けれど、日野中学校は色々活動ががんばってはるし、部活動がよくなってきているなどこれは正直思います。

町長 週5日の勤務が教職員の基本なのに、月曜日から金曜日まで仕事をして、仮に水曜日に部活がなかったとしても、土日まで拘束するということが自体が間違っているのではないか。

野瀬参事 おっしゃる通りだと思います。昨年度から中学校の出勤時間、退勤時間のチェックをやっているのですが、それこそ80時間ぎりぎり、もしくは大きく超えている先生方がいます。町長がおっしゃっているように働き方改革を進めていくことは非常に重要ですし、喫緊の課題だと思っています。しかし、例えば部活をやめるとしますと、地域の皆様のご理解等を得てやっていかないと、何でもかんでも切っていったらいいのかということにはなかなかありませんので、町全体をあげて、そういう雰囲気醸し出していく、国全体をあげて醸し出していく、町民の皆さんにご理解を得ていくという段階を経る必要があるかと思っています。

町長 土曜日でも日曜日でもクラブ活動をしているのを一日休むのを「切る」という言葉がなじむこと自体間違っているのではないか。教職員は一週間休みなしということが前提なのか。好きな先生が土日やっていて、土日やらない先生はさぼっているからというように親たちが言うことも間違っているわけで、せっかく学校がよくしてくれるからと言って、文科省が言っているのに、水曜日くらいをやめるような話ではなく、せめて土日の一つくらいバチッとやめて、教職員がリフレッシュする、そういう立場に教育委員会が立たなければいけないのではないか。学校が言えないのであれば教育委員会がバチッとやらなければいけないのではないか。七日間勤務が前提みたいで、1日やめるのは「切る」というのはどうか。それくらいのことしかできないのは、指導能力がないということではないか。一週間バッチリやらないと勝てないようなチームなら、指導がなっていないということだ。一週間のうち五日で充分強い選手が作れるはずだ。

野瀬参事 町長のような考え方をしていただくと、非常にありがたい。

町長 僕も陸上やっている息子がいて聞いてみたら、陸上部は土日どちらかは休みだと言っていたけれど、まだ日野中では土日にクラブがあるということか。

野瀬参事 資料をもとにもどらないとわかりませんが。

町長 資料の話ではなく、今の話題の話ではないか。一方で教職員の働き過ぎの大変さを言われていて、一方で子どもたちが過密なスケジュールに追われている。逆にクラブ活動に行っている子どもたちは寄って悪いことしないからいいというのがあるのかもしれない。せっかく世の中が、もう少し子どもも親も教職員もゆとりを持とうという世論が出ている時に、がんばっている先生に校長が言

えないのだったら、教育長が言わないといけないのではないかと思う。僕の子どもが陸上部にいた時でも、好きな先生がいて大変だった。僕は学校にどなりこみに行った。

野瀬参事 世論が盛り上がっている時に、そういう理解をしていただきつつある時に、こういうのは非常にありがたいと思います。

石岡委員 私は保護者ですけど、娘の吹奏楽、息子の陸上部もそうでした。先生方は年間を通して本当に正月ぐらいしか休まれない。土日は試合があるし、それにずっとついてきてくださる。町長が言われる通りで間違っているのはわかるのですが、その姿をみて、子どもたちの心に残るんですね。はっきり言って正しい姿ではないですけど、子どもたちの心にはその先生方の姿が焼き付いている。

町長 微妙なんですよ。ちゃんと普通にやって感動を呼ぶような指導をしないといけないのではないか。自分の子どもにもつきあわない教員が、唯一クラブ活動で強くなったことだけが生きがいのようにして、勝って優勝させれば、学校から文句を言われたいな、そんなのは間違っている。以前卓球でマニアックな先生がおられたが、勝ったら、校長は間違っているとは言えないのではないか。

高橋委員 全国大会行ったら、校長は言えない。

町長 それは、おかしいと思う。クラブ活動でなく、授業とクラス運営こそが教員の本分であって、クラブ活動は、それはそれで大事だけど、クラブ活動が一番ということではない。クラブの子どもは、選手になるかならないかもあって、クラブの顧問は絶大的な権力を持っているのだから、言うことをきく。従わすことによって、たたけば強くなるのは当たり前。たたかなくても強くなる選手をどう作るかが大事だ。僕の個人的見解を押しつける気はないけど、せっかくの機会に、もう少し今の事由にあった議論ができてもいいのではないかと思う。

教育長 少しずつですけど、浸透はしてきている。今町長がおっしゃるのは、独特の価値観の指導者がいて、子どもらが困っているのではないかということなのかと思いますが。

町長 昔からそういう先生はいくらでもいたではないか。マニアックな先生がいくらでもいるではないか。

教育長 今日話題になっている働き方改革はどちらかというと教員の働き方に関わっていますが、マニアックな人はだんだん減ってきて、そんなにいません。いれば注意すべきだし、体罰や暴言などはいけないことです。

その話はそうなんですけど、部活というのはなかなか難しいと思います。色々なものが学校に入ってきて、部活も身を粉にしてがんばる闘志で支えられていたのが、今までの学校文化でした。それではいけないと我々も皆も言っているのだけれども、国があのような政策を言っているのは、パフォーマンスかなと

も思います。本当に本気でやるのだったら、教職員の数や指導員を増やさないと、この問題は絶対に解決できない。

町 長 教職員の数を増やしても、マニアックな先生が残るからだめではないか。

教育長 そんな特別な話ではなくて。

町 長 そういう人がいたら、それをしない先生はなまけものと親がみるではないか。

教育長 子どもらは、そんなことはないです。そういう先生だったら、他の授業でも、個性や特性が出過ぎてしまうと思います。

西村委員 先に論議がございました次期学習指導要領に基づく先行的な取り決めで、様々な現場に色々な仕事をやっていただくような状態になってきております。同時に今おっしゃった学校の中は、特に中学校の部活の問題は、日野教育も少し前から色々な角度から問題にしております。「働き方改革」との結びつきで、どこから手をつけていくかということからいきますと、子どもをちゃんと育てていくためには、まず先生がきちっと指導できるような体制に持っていけないといけない。その体制にもっていくためには、やはり今まで無理をしている部分を少しでも改善して行って、正常な姿に戻していくということが必要ではないかと思えます。

そのためには、先ほど野瀬参事がおっしゃったように、部活をどうするという事になれば、保護者の方にきちっとしたご理解をいただかないといけない。今まで何もかも学校が引き受けているような形で、膨張しきっているところですから。そこで部活に関しては、子どもの健康もそうだし、それぞれ部活の技術を高めていくためにも必要な休みはとって、画期的な指導をしてくれという原則にたって、きちんと理論づけがあるというか説得力のあることを保護者の方に訴えて行って、それをまず切り口に、一つ一つ実現をしていかなければいけないのではないかと思います。

確かに、朝練で、ずいぶん朝早い時間に自転車で学校に行く子どもを見ます。私は自主的に行ったらいいと思いますが、結局は学校にいるなかでの時間の使い方といいますか、生徒が動いていれば、当然教える側の人もほったらかしにしておくわけにはいかないので、総合的に考えて、今この部活については、こういう切り口でいかなければいけないということになれば、きちっと判断ができる責任を持てる部署から、現場へきちっとした指示を出していかなければいけないなと思えます。

現場というのは、なかなか変わらない。私も金融機関におりまして支店を預かっていたこともあります。決算の前には色々なことがありますが、どこかでメスをいれてやめさせて、正常な姿の働きにしようと思っても、今までやってきた蓄積や色々なものがあって、現場はもう抜けられないようになっている。その時は外圧という言葉が悪いですが、外から、きちっと必要なことを言って

指導していくというのが、やはり必要だと思います。

以前に部活について意見を申し上げたことはないことはないのですが、今日こうした会議で論じていただきまして、できるところから、ぜひやっていただきたいと思います。

町 長 クラブ活動といっても、その分野で必ず知っている先生がそこにはまるわけではないですよね。バレーボールをやってないけど、バレーボール部の顧問だということもあるわけなので、学校教育の中におけるクラブ活動とはなんぞやということで、勝ったところだけが手柄みたいなことでは僕はいけないと思います。教員はクラブ活動は任意なんですよね。たまたま持ったところが勝つかもわからないけど、何も知らない英語の先生が運動部を持つこともあるかもしれない。運動部だけでなく、音楽部もブラスバンドも色々なものがあるのだから、そこで全然知らないのに、本を読みながらやらないといけない先生もいるわけです。

西村委員 今は、そういうことがないように、教員配置などはしている。

町 長 そんなこと全部できるはずがない。

西村委員 少しはそういうのがあると感じています。

町 長 全てにできるはずがない。英語、国語、算数、理科、社会があって、若い人と年寄りがいて、そこにまたクラブ活動の配属の話までピタッとはまるはずがない。はまる場合もあるというレベルであって、はまらないことを前提に学校運営がされなかったら、例えば何の経験もない人がサッカー部だと言われても、その先生にしたらたまらない。僕らの時代は、先生が教えるのではなく、先輩が教える部活動だったが、今は先生が教える方がよいような部活動なので、時代が変わったのですね。クラブの話ばかりしているが。

高橋委員 日野町の教育の基本目標も滋賀県教委の教育指針も非常に見やすく、教育長からの説明を聞いて、ぜひこういう方向で充実させていってほしいと思っています。

私がここに寄せてもらった当初からお願いしていたことを言わせてもらいます。毎年賛否両論がありますけれど、学力調査があります。それに、以前から子どもたちに、専門用語ですが自己肯定感や自尊感情など自分に良いところがあるか等を聞くアンケートがあります。私がここにいる時に、それをなんとかしようと滋賀大との共催で、第一回教育フォーラムと称して、冬場にその調査項目を私の方でまとめて、今でも合同研というのでしょうか、そこにも入ってもらって、最後に滋賀大教授に話をしてもらいました。その時お話してもらったのは、睡眠時間が大事だということです。午前1時も2時も起きているというのは、勉強に大きなマイナス面がある。だから当たり前と思っていることを当たり前としていかないとだめだよという指導を受けました。

数字は公開できないと思うのですが、あの時の話では、また機会があったら、第二回目というようにもっていこうという話があったかと思います。ここでこの話をしてはいけないのかもしれませんが、現場に行ってからなかなかできなかったのですが、何年か経っています。データ整理は、単純集計だけでなく、クロス集計や回帰分析など色々な方法論でできます。意識の面でも、日野の子どもたちは、日野祭や地域の祭りなど色々な地域の活動に非常に積極的に参加しているというのがあります。数字の部分はともかくとして、事務局の方でもそれなりに細かいデータで校長会や教頭会でお示しになっておられるとは思いますが、広く日野町民一般に、今の日野町の子どもでここがちょっと良くなってきた、ここは課題だなというようなことを示す、そういうフォーラム的なことをぜひとも継続的に、毎年といたら大変な話ですが、お願いをしたいなと思います。

あの時代と比べると、今はたぶん良くなっていると思います。あの時は日野中で朝ご飯を食べてない子どもが結構いて、どうなっているのだろうとも思っています。なかなか解決案はなかったのですが、今は改善されてきているように校長からも聞いています。

お忙しいとは思いますが、目に見える形で、いわゆる言葉を換えて言うと可視化するような、事業とは言わず法的なことを、当初からお願いしているのですが、僭越ですが、実現できるようにお願いしたいと思っています。

教育長 学力が大前提の直接的な指導ばかりでなくて、それを支える力やコミュニティの力が大事だという話や、またその前提として自己肯定感の大切さについて話題になりました。また家庭に関しては、家族の関わり方や生活習慣の大切さなど、色々なお話をしていただいたと思います。先生方もそういうお話を聞きたいという意見がありました。今年特色ある教育の中で、各学校と相談していきたいと思っています。

高橋委員 どうぞよろしくお願ひします。

石岡委員 去年も出生数が日野では 100 人になったみたいですし、総合計画の中で日野の 100 人規模で多くは変わっていかないという数字が出ていますし、他の学校で多い少ないはあると思います。言っている間に幼稚園、小学校となっていくですし、本当に手当しないといけないと思うんですけど、よろしくお願ひします。

町長 子どもや人口を維持するためには、それぞれの集落で 1 パーセント程度若い人を受け入れれば維持できると言われていています。これは何も他所から移住者が 1 パーセント来なくても、在所にいる者がペアになって、そこで普通に子どもが生まれれば、1 パーセントは達成できる。僕の在所をみても、僕の息子は結婚していないので偉そうに言えないけど、昔だったら 60 歳だったら孫がいるのが前提だったのが、ここの子どもはあそこに行っているとか、ここの子は結婚し

ていないとかです。そういう意味では移住者1パーセント2パーセントという  
ようなことを言わなくても、そこにいる人たちがきちんと所帯を持つというこ  
とと、残るということが大事だと思います。

今ふるさと学習とっていますけど、他所から移ってきた人が、良いとこやと  
言っているのに、ここに生まれ育った人たちがそう言っていない、そこまで自  
覚していない部分もあるし、親も好きなところへ行きなさいというようになって  
います。そのところも含めてやはり、西村さんが言われる共通認識で、色  
んな諸制度を充実させるだけでなく、地域に残り、家庭を持つことは良いこと、  
悪いことというのではなく、それは価値観があるのだけど、この町で住み続ける  
という雰囲気、教育の現場からも、社会教育の現場からも作っていかないと  
いけないというのはおっしゃる通りです。

石岡委員 少なくなった学校を維持する、少ない人数で学校の教育カリキュラムを受けて  
いるという状況が、ひょっとして悪いのかもしれませんが。じゃあ、その時にこ  
の学校を日野小学校に精算しましょうと地域合成のストーリー等がありますし、  
行政はそれを盾にするのですが、教育委員会としては、学校をなくしましょう  
というのは、なかなか言いにくいことです。

町長 この問題は日野町だけでなく、甲賀市でも鮎河小学校の例もある。行政の方  
から力技でお前のところを潰すというのは、たぶん地域の気持ちからいうと、い  
くら力技で議会の多数決でとったとしても、将来的にその人たちは私たちに  
潰されたのだということになると思うから、ここはやはり納得づくでいかない  
といけないのではないかな。

日野で言うと、鎌掛が少なくなったから統合してという親たちの要望があって、  
統合となった。ここ数年でも桜谷の幼稚園が中之郷と提携してやっているが、  
これは親たちが統合してということで統合した。あの時に東桜谷のおじさんた  
ちは、そんなことをさせるかと、なんで中之郷潰して何を言っているのかとい  
う感じだった。それを多くの人たちがものすごく議論をして、これは子どもの  
ために統合しないといけないだろうということで、あの時は幼稚園の世代とそ  
の下の世代と先輩たちが皆ものすごく議論して、西桜谷への統合をされたとい  
うのを、僕は経験しているので、やはり教育の問題は力技ではなくて、できれ  
ば存続させる方向で努力はしなければならないけれども、おっしゃるように西  
大路も今は複式学級になる基準ということになっているので、そこを親御さん  
たちがどういうふうに見て、どうするのかというのがある。遠回りでも、そこ  
は当事者の合意がないと、町長が脅しをかけたらできるという問題ではないの  
ではないかなと今のところは思います。

ただ、これから今8、8の16人で複式学級介助を予定しているけど、これが  
5、5になって、一学年5人になった時に、その親たちが5人でいいわと、

ドッジボールもできないし、運動会もできないでいいのかというふうに言い出された時に、また真摯な議論になっていくのではないかなと思うけれども、今の状況のもとでは、力技ということはすべきではないのではないかと思います。合理的に言えば、南比都佐が必佐小学校へ行けばすむ話だし、西大路が桜谷に行ったらちょうど適正規模になるのだけど、そうはなかなかいかない。

西村委員 今年度5つの小学校でコーディネーターがスタートした。これから地域を存続、発展させていこうと思ったら、学校や公民館といったものが核となっていかなければいけない。そういう意味では、今回スタートしました地域学校協働活動に期待されます。現に南比都佐、桜谷、西大路のいわゆる小規模校では、地域とあらゆる制度が既にとられている。

日野小学校の場合ですと、500人を超える子どもがいて、新しい住宅がどんどん建ってきますと、1住民として考えますと、学校と住民の結びつきが希薄だと、言ったら悪いけれど、学校のことが人ごとのようになっているところもある。公民館活動でも、日野地区の町民運動会は、なかなか参加者が揃わないところもある。日野の場合は、中心市街地のある程度の規模の小学校は、そういうように住民と学校の間が希薄だが、一方周辺は密着度が高い。そのあたりの現状があるわけですが、周辺小規模校には、その中でさらに頑張っていて、中心部もそれなりに住民との結びつきを密にしていく。先ほど石岡さんがおっしゃったような課題を抱えていることも現実問題としてあるわけですから、そういう中でそれが熟していくようにしていかなければいけないと思います。

町長 今日の議論でコーディネーターについて、私はあまりわからないけど、そこまで言うならやればいいと言った経緯がある。メンバーが良い人がなっておられるから良いのかもしれないが、その人たちが学校当局と地域の人たちとの間に入られるといいかもしれないと思う。逆に言うと、地域がゴリゴリ学校にあれもしろ、これもしろと言われた時に、教頭先生がそんなことしないでほしいとはなかなか言えないので、そういう人が中に入って、できることばかりではないですよという形でワンクッションおける。ちょっと言い方は悪いのですが、学校の運営の必要性がゆえに地域を巻き込んでやるべきもので、地域の熱い思いで学校に押しかけるものではないというふうに、僕は思います。学校が主体的に子どもの教育に責任を持って、それにPTAも含めて地域がしっかり協力していく。そのために学校の極めて高いイニシアティブが大事になってくるのだけど、そういう調整をするのに、コーディネーターの人がいるというのは、いいことかなと今日思いました。

山田委員 コーディネーターさんや外国語教師の方や、小学校にかかわらず日野町の教育に関わる方が増えてきていて、すごくありがたいなと思っています。ついこの間、通学合宿の時にお世話になったお宅のおじいさんから、卒業した

子が声をかけていただいたそうなんです。その子もうれしがっていましたし、その方もよく声をかけてくれはったなと思うのですが、そのようにつながりが、だいぶできてきているなとも思います。また、この間小学校の音楽会に、小学校に親族の子どもさんがいない方も見に来て下さっていて、すごくありがたいなとも思いました。

息子が今日役場でお世話になったようですが、この間は熊野に行ってきたと言っていましたし、そのように日野町のことを色々学習させてもらっていて、私以上に日野のことをだんだんわかってきているのではないかと思うんです。だからすごくいい方向に教育していただいているなとも思っています。最後のまとめとしては不十分ですけど、順序よくいっていると思いますので、このように教育して行ってほしいと思います。

高橋委員 私の字もこの間しゃべっていたら、小学生が少ししかいない、来年になったら二人とかです。私自身も、もうすぐ65歳になるのですが、はじめ考えていた理想の年寄り像と全く違う生き方をこれからはしないといけなくなってしまった。日野だけでなく滋賀県全体が製造県ではあるけれど本社機能がないということと、子どもたちが仲間にすごく左右されていることがある。極端な言い方ですが、友だちが一部上場のところに行ったら、僕も行かないといけなくて行ってしまう。家も大事だと思いながら、そうはならない結果になってしまう、結婚もむこうでしてしまう。私がおじいちゃんになったら、孫の顔でも見に行くのかなというようなことを思っていますが、それはあまりにも寂しい。日野町全体がそんな雰囲気になったら困ると思う。20代後半から30代前半の人たちが、こんなこと言ったら怒られるかも知れないが、なんとなく結構町外へ出て行っている、たまには帰ってくるけど帰ってこない、それでは困るなとそういう風を感じています。

町長 東京一極集中がまだ続いている。家庭のあり方についても、かつて1階は夫婦で2階は若夫婦みたいな時代があったけれども、今やなかなか同じ棟に住むということは、なかなかないような時代になってきている。農村であれば、かつて農家は継がなくていけないものだったけど、継がなくてもいいようになってしまった。そういう社会の状況の変化を嘆いていても仕方ない。この町に対する想いを持っている子どもたちが他所の町に比べて少ないということは絶対はないので、そういう子どもたちへのふるさと教育、学校における教育や社会教育、そして親たちも含めて地域で生きていく、そういうことをもっと大切にするような、雰囲気・世論を作っていくことが大事だなとも思います。一定の年齢を過ぎてしまったら、大企業に入っていようと中小企業に入っていようと、そんなに変わらない。逆に言うと大きな所でコマになっているくらいなら、小さい所で存在感を持っている方がよっぽど人として生きていけるわけだけど、若



いと中小企業より大きい企業に入っている方がいいように思うのかも知れない。  
実際人として生きていくにはそうではないのだから、教育を通じて地域を大切  
にする、そういう子どもを育てるために、皆さん力を合わせましょう。